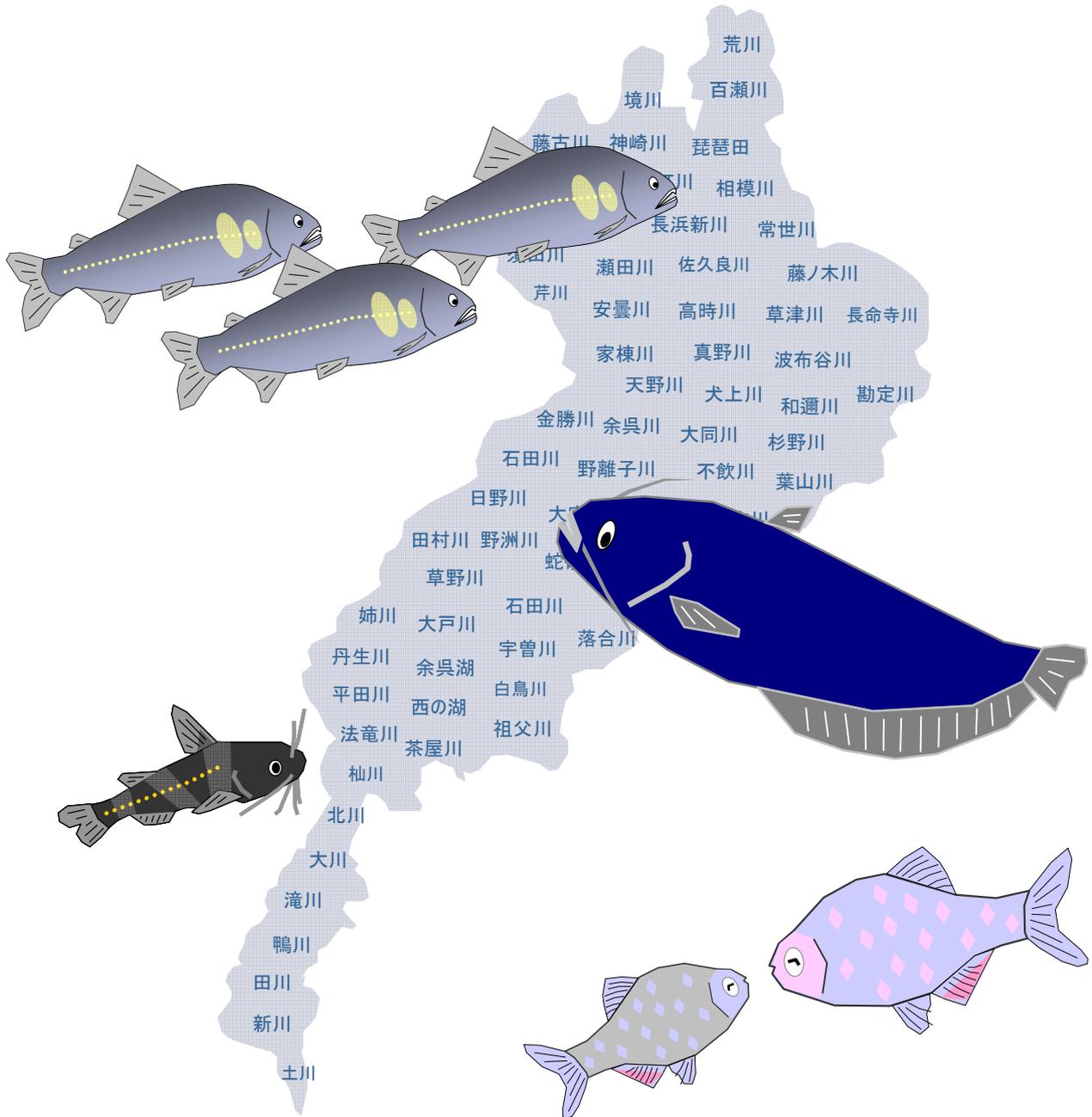


第7回

淡海の川づくりフォーラム

プログラム & 選考用資料



日時：平成26年(2014年)2月16日(日) 9:30~16:30 (受付 9:10 より)

場所：コラボしが 21 3階各会議室

主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会/滋賀県

後援：滋賀県河港・砂防協会、マザーレイクフォーラム運営委員会

目次

1. 淡海の川づくりフォーラムの概要	2
2. 大会プログラム	3
3. 会場レイアウト	4
4. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について	5
5. 参加団体一覧・テーブル	6
6. テーブル別各団体活動位置図	7
7. テーブル選考 選考員の紹介	9
8. 全体討論 選考員の紹介	12
9. 総合コーディネーター・コメンテーター & 実行委員会の紹介	13
10. 参加団体 活動概要	15

淡海の川づくりフォーラムは、マザーレイク 21 計画に基づく
マザーレイクフォーラムとの連携事業です。



1. 淡海の川づくりフォーラムの概要

淡海の川づくりフォーラムでは、“川や水辺と共生する暮らし”、“川や水辺と私たちのいい関係”について、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、公開選考方式のワークショップを通じて、それぞれの交流の中で議論を深め、探ります。

- 日時 平成 26 年(2014 年)2 月 16 日(日) 9:30~16:30 (9:10 受付開始)
- 場所 コラボしが 2 1 3 階各会議室
- 内容 テーブル選考、復活選考、全体討論

テーブル選考(午前)

参加団体が 3 つのグループに分かれて発表します。

選考員の推薦により全体討論へ

全体討論(午後 2)

テーブル選考、復活選考を経て、推薦された“きらり”と光る活動を学びながら、“川や水辺と私たちの関係”について議論を深めていきます。

テーブル選考で十分にアピールできなくても、“きらり”と光る活動には・・・

復活選考(午後 1)

テーブル選考では十分に探れなかった大切な活動を全体討論に推薦します。

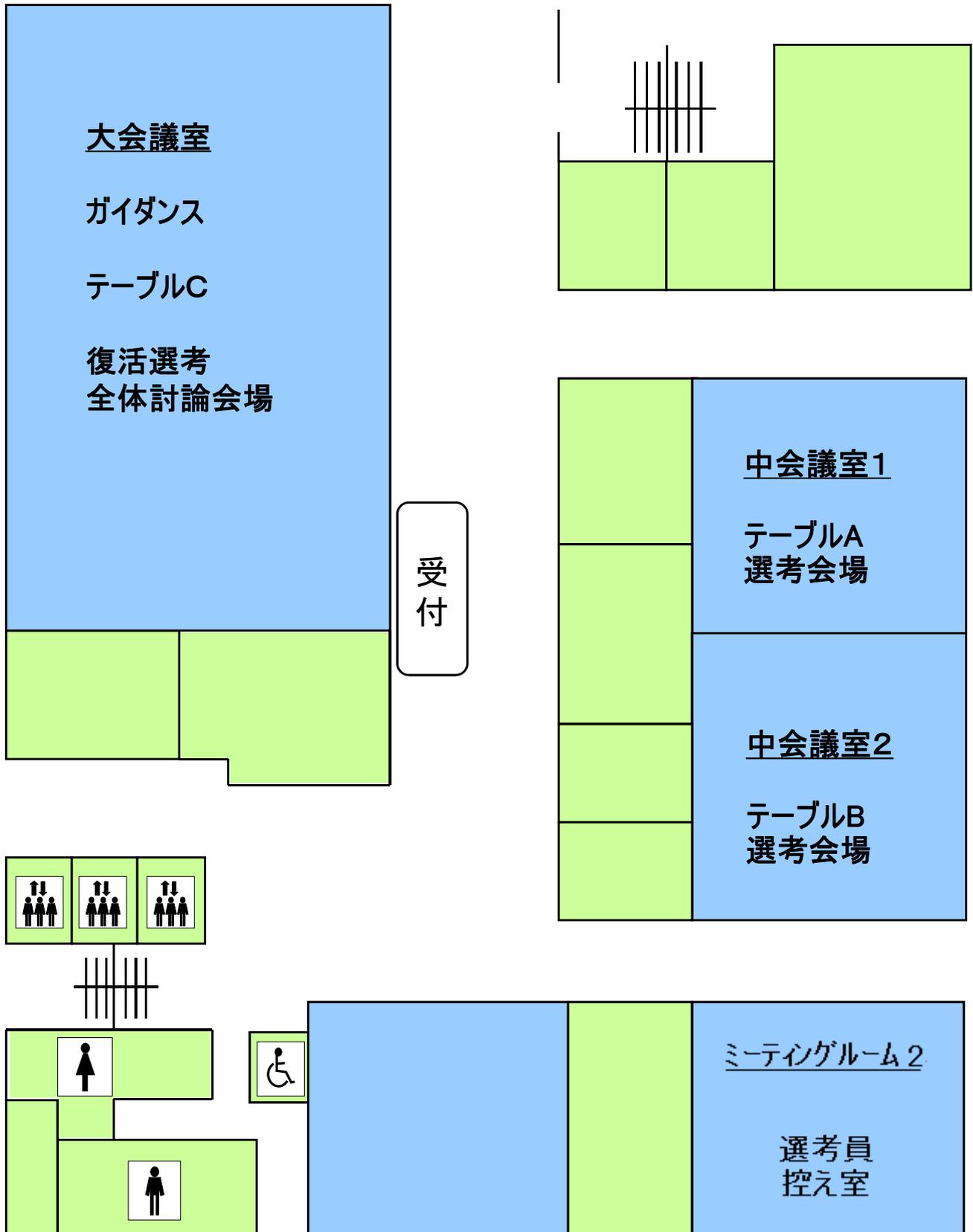
選考員の推薦により全体討論へ

2. 大会プログラム

時間	内 容
9:00	○会場準備（※ご参加いただくみなさんもお手伝いいただけますと幸いです。）
	○受付
9:30	○選考委員・事務局ミーティング(進め方、選考方法等)
9:30	○開会、ガイダンス
	大会議室で開会宣言を行い、その後1日の流れを説明します。
10:00	
	○テーブル選考発表
10:00	1)各テーブルに分かれて活動を発表します。(発表時間各5分)
	2)発表者と選考員とで議論を深め、全体討論に推薦する“いち押し”の活動を選考します。(テーブルごとに2団体)
11:30	3)ここで推薦が得られなかった団体は復活選考に進みます。
11:30	○テーブル選考の結果発表
	大会議室で、各テーブルから推薦された団体(計6団体)を発表します。
11:45	
11:45	
	お昼休憩
12:35	
12:35	○復活選考
	1)時間内で自由に選考員に活動内容をアピール
13:05	2)復活選考から全体討論に進めるのは3団体程度
13:05	○スペシャルセッション
	「大阪川床・北浜テラスのとりくみ(経緯とこれから)」
13:30	北浜水辺協議会 事務局長 山根秀宣さん
	○全体討論
13:30	1)5分間で活動内容を発表
	2)選考員・コメンテーターを中心に、明日からの活動の参考になるような、今年いちばん“キラリと光る活動”について、参加者全員でさらに議論を深めていきます。
16:15	
16:15	○各賞の発表・表彰式
	1)「グランプリ」・「準グランプリ」の表彰
16:30	2)「山紫水明賞」、「マザーレイクフォーラム賞」の表彰

3. 会場レイアウト

コラボしが21 3階



4. 公開選考会の進め方・選考基準、表彰について

(1) 公開選考会の進め方について

- ・ 選考会は、一次選考→復活選考→全体選考(公開討論会)→表彰の順番で進めていきます。
- ・ 一次選考は3グループ、1テーブル5件または6件の発表となります。
- ・ 選考員は、自らも発表者から情報を得たり、学んだりする姿勢を持ちながら参加者と一緒に“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちのいい関係”とは何かを探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、創造的に深めていくことを心がけてください。

(2) 選考基準

- ・ 伝統的な文化と新しい文化が出会い融合する湖国滋賀にふさわしい“川や水辺と私たちの共生”、“川や水辺と私たちとのいい関係”を探ります。
- ・ 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません。
- ・ 公開選考会は、以下の4つのポイントにおいて総合評価します。

- 1) 発想・着眼評価：“川や水辺と私たちのいい関係”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
- 2) 関わり評価：地域住民と水辺との豊かで良好な関わり合いについての評価
- 3) プロセス評価：市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
- 4) 計画・技術評価：“川や水辺と私たちの共生”のために工夫された計画手法や採用技術についての評価

(3) 表彰

【グランプリ・準グランプリ】

- ・ 上記の選考基準により、審査する時点の流域・地域の情勢も踏まえ、“水辺と私たちの共生”、“水辺と私たちのいい関係”のモデルとなる活動を選考します。
- ・ 上記の選考基準により、仲間たちに希望を与える活動を選考します。

【山紫水明賞（河港・砂防協会賞）】

- ・ 上記の選考基準とは別の視点から、今後の淡海のいい川づくり・いい湖づくりの(事業)推進に向けて貢献する活動を選考します。
- ・ テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

【マザーレイクフォーラム賞】

- ・ 上記の選考基準とは別の視点から、マザーレイク 21 計画の目標達成に向けて貢献する活動を選考します。
- ・ テーブル選考で推薦されなかった団体も含めて、すべての参加団体が受賞の候補となります。

5. 参加団体一覧・テーブル

(敬称略)

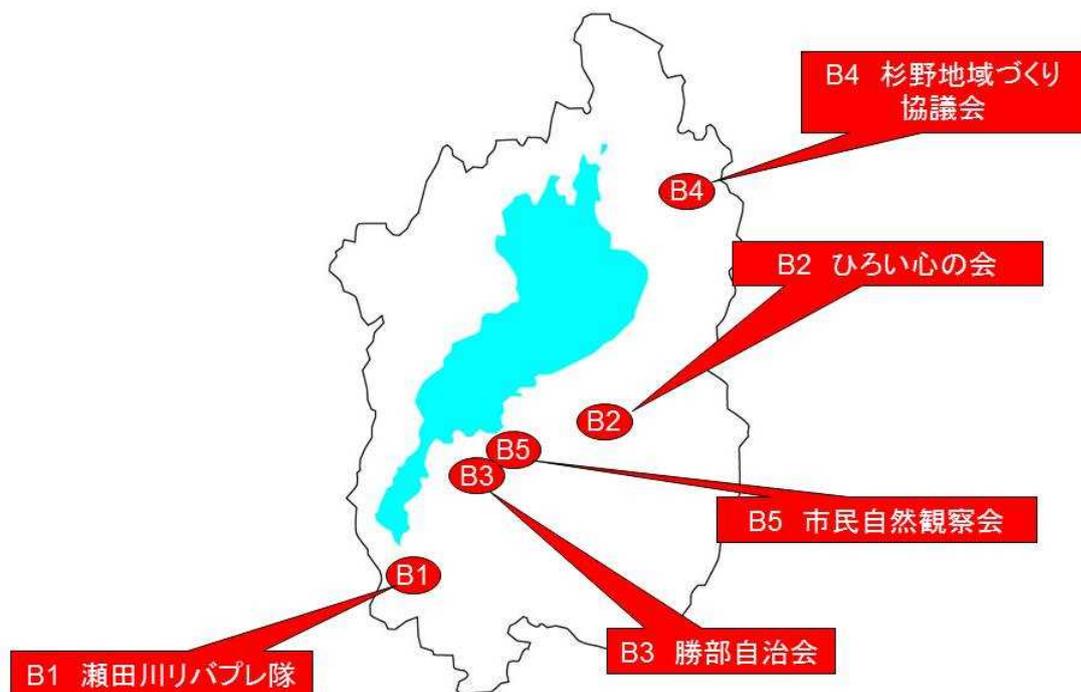
	グループ名	代表者	発表者
テーブルA	A-1 白鳥川の景観を良くする会	吉田栄治	中野哲也、佐藤成宜、森永浩哉、白上智康、鈴木正一、富田修、小澤謙二
	A-2 いきものみつけファーム滋賀推進協議会	岡田和男	井坂尚司、竜王真紀
	A-3 渋川生き物絵図作成支援委員会	小宮康	島田正和、片山恵理、荻野祐浩、笠悟温子
	A-4 常世川を美しくする会と常世川再生の会	尾中克行 上田正雄	尾中克行、山田健児、木村忠
	A-5 せせらぎの郷	堀彰男	井狩辰也
テーブルB	B-1 NPO法人瀬田川リバプレ隊	富岡親憲	富岡親憲、美濃部進、後藤三郎、井上孝夫、富田英夫、伊藤達也、朝田雅夫
	B-2 ひろい心の会	速水次郎	速水次郎、藤本長蔵
	B-3 守山市勝部自治会	藤本律男	小林珠美、小島良和、長谷川浩、櫻井聡明、山根辰男
	B-4 長浜市木之本町杉野地域づくり協議会 & 長浜市北部振興局産業振興課	松本長治	土田孝洋
	B-5 市民自然観察会	吉川正雄	西崎嘉代子
テーブルC	C-1 琵琶湖博物館 環境学習センター	桑原雅之	布川恵理、池田 勝
	C-2 特定非営利活動法人 芹川	礮谷友司	川崎敦子、礮谷友司
	C-3 山内エコクラブ	竜王真紀	馬場柚、岡田花蓮、井口朋穂、堀ノ内美咲、植山莉菜
	C-4 水土里を守る新旭地区	清川輝夫	上原和男
	C-5 高時川源流の森と文化を継承する会	太々野功	太々野功、生嶋邦雄、藤田一則、横山屯、落合哲也
	C-6 琵琶湖河川レンジャー有志	伊東京子	伊東京子、池本裕子、松尾眞一郎
	計		16 団体

6. テーブル別各団体活動位置図

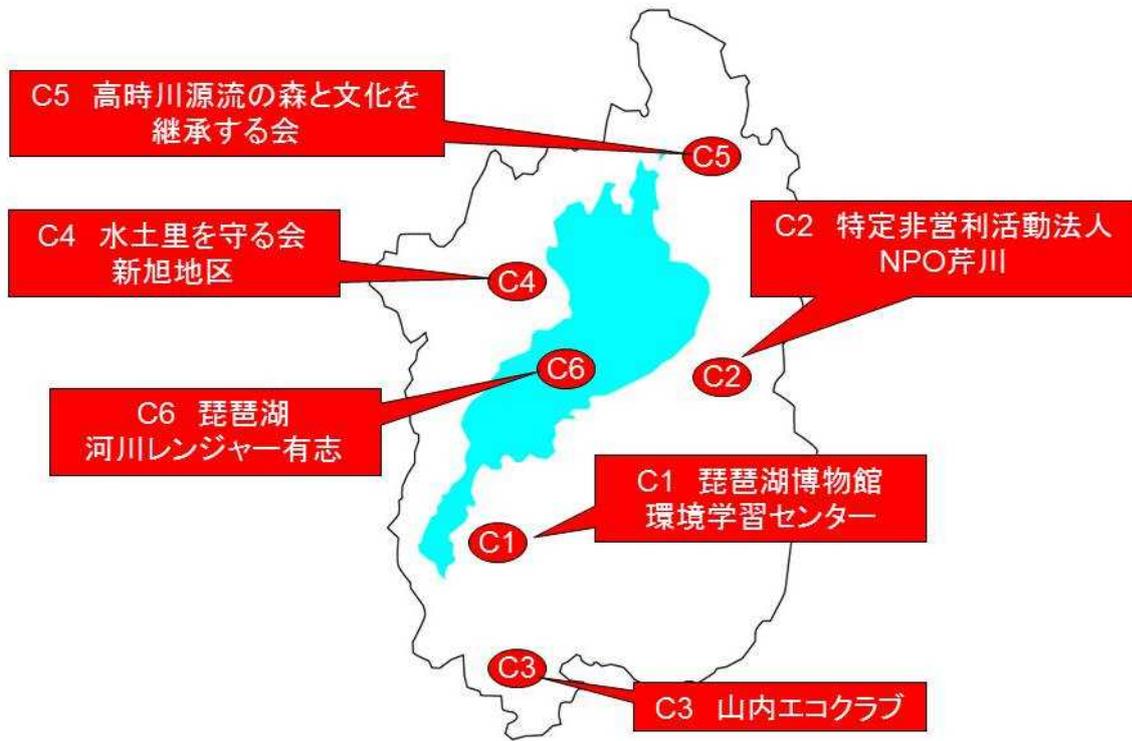
テーブル A



テーブル B



テーブル C



7. テーブル選考 選考員プロフィール

(五十音順)

テーブル A

(テーブル・コーディネーター)



小丸 和恵 (こまる かずえ) / NPO法人子どもと川とまちのフォーラム 理事

大阪府生まれ、愛媛県と京都府育ち。びわ湖の近くに越してきて2年。

『子どもが育つ流域の再生』のためには、世代や立場、分野の壁を越えて人々が信頼関係のもと、つながることが大切」との思いから、ライフワークとして京都で活動을續けて、十数年。これまでのフィールド京都と滋賀をつなぐ役割を担えればと願っている。

3・11 後の暮らし方を提案する「あるもん (自然素材・リサイクル・地産地消)」を大切に暮らす「arumonde 暮らしを楽しむ会」も主宰し、被災地からの避難ママたちとの活動もサポートしている。

(選考員)



野崎 信宏 (のざき のぶひろ) / 流域政策局 河川・港湾室長

1961 年滋賀県大津市生まれ。84 年土木技術職として滋賀県に入庁。

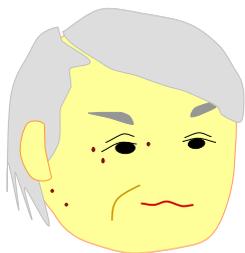
以前は都市計画行政に携わることが多かったが、98 年以降は河川行政を中心に担当。若い頃は、カヌーで各地の川に親しんでいたが、最近は半分仕事、半分遊びで川歩き、山歩き。2010 年には大津市内の一級河川をほぼ踏破。

松尾 則長 (まつお のりなが) / 犬上川を豊かにする会

2001 年の川づくり会議の地域委員をきっかけに流域の深みに溺れてしまい、その流れから立ち上がった「犬上川を豊かにする会」に参加。

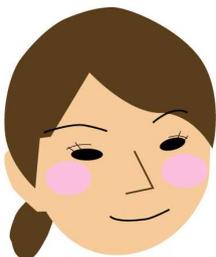
設立まもない同会が 2003 年第 3 回世界水フォーラム in 滋賀の東京プレ・水フォーラムにパネラーとして参加し、力不足を痛感し今日に至っています。

流域自治会、学生達とともに協働をはかり、犬上川の管理をサポートする会です。



山口 美知子 (やまぐち みちこ) / 滋賀地方自治研究センター 理事

滋賀県長浜市 (高月町) 生まれ。林業技師として滋賀県入庁後、2012 年 3 月から東近江市職員 (現企画部まちづくり協働課) となる。仕事以外では、持続可能な地域モデルを検討する「滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト」、びわ湖の森を元気にする活動をしている「kikito」、市民活動を支える中間支援組織「NPO 法人まちづくりネット東近江」等に参加している。



テーブル B

(テーブル・コーディネーター)



(選考員)



佐藤 祐一(さとう ゆういち) / 琵琶湖環境科学研究センター 研究員

専門は「なんでも屋」。水質や魚のシミュレーション、環境・社会調査、環境計画づくり、オペレーションズ・リサーチ、ワークショップのファシリテーターなど、とにかく広く関わることで見えてくる「何か」を探して日夜研究活動中。2008年から3年間は、市民参画により琵琶湖流域の将来像を描くプロジェクトの事務局を担当。その結果はマザーレイク 21 計画の将来像として取り入れられた。

田中 秀子(たなか ひでこ) / 筑後川水問題研究会

福岡県生まれ、原田正純先生(水俣病)との出会いや広松伝さん達との筑水研活動(1978年～)、から不条理には楯突きつつ、命にとって本当に大切なものを学ぶ。

莫大な予算をつぎ込みながらも増大する災害に対し、干満差6mの有明海・佐賀平野の伝統的治水技術(減災の知恵)で上手にあきらめる(溢れさせる)流域治水を発信中。

国土交通省を定年退職後再任用。朗読ボランティア(音訳、読み聞かせ)で地域デビュー。



金尾 滋史(かなお しげふみ) / 琵琶湖博物館 学芸員

1980年広島県生まれ。当時学長をしていた日高敏隆先生と琵琶湖の魚に憧れ、滋賀県立大学へ入学。その後同大学院、多賀町立博物館学芸員を経て現職。専門は淡水魚の保全生態学。

学生時代から地域の川づくり、河川・田んぼでの環境教育にいろいろと参画してきた。現在は、地域の子どもたちに囲まれながら、「学」と「芸」を両立させるカリスマ学芸員を目指して日々修行中。



吉田 栄治(よしだ えいじ) / 白鳥川の景観を良くする会 代表

2006年2月に白鳥川の景観を良くする会を発足、今年は9年目になり会員は約70名、白鳥川流域約5kmの除草作業やごみ拾い、桜並木づく活動を月2回の作業で流域の景観向上に努めております。

現在、市民に親しまれる川づくりを目指し約800m手作りの桜ぼんぼり点灯や鯉のぼりの川渡し、地元小学校と連携し5年生の川での環境学習支援に活動中。

来年は発足10年目の大きな節目より楽しくなる活動に向けアイデア募集中。

テーブル C

(テーブル・コーディネーター)



三和 伸彦(みわ のぶひこ) / 琵琶湖政策課 参事

1963年滋賀県長浜市生まれ。87年化学の技術職員として滋賀県に入庁後、環境政策課やエコライフ推進課など、一貫して環境行政を担当。

地元では湖北のタウン誌「長浜み～な」のボランティアスタッフとして、ふるさとの再発見をライフワークに、日々の暮らしの中で豊かさや幸せを感じられる心のあり方を模索中。

(選考員)

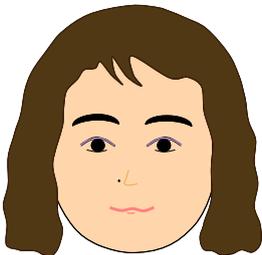


青田 朋恵(あおた ともえ) / 湖北農業農村振興事務所 課長補佐

仕事では、「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」や「魚のゆりかご水田プロジェクト」などに携わり、生物多様性と農村の活性化などについて考えています。最近では、「再生可能エネルギー」について関心をもっています。

農山村が、いつまでも元気で明るくあって欲しいと願い、そのために何が出来るか、自分の無力さを感じつつも、日々悪戦苦闘しています！

プライベートでは、農山村に古くから伝わる郷土料理や食材に魅せられて、常に鼻をきかせ、いいにおいのする方向へは猪突猛進していきます。



小坂 育子(こさか いくこ) / 子ども流域文化研究所 代表

三重県生まれ。水と文化研究会・子ども流域文化研究所・地元学ネットワーク近畿。「水と人とモノの関わり」にある身近な水環境を通して、それぞれの地域の暮らしにあるいろいろな仕組みを学びながら「ムラの元気応援団」をめざしている。

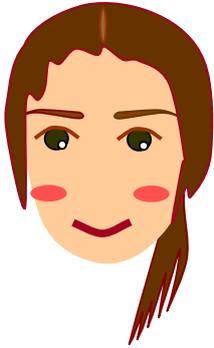


中村 大輔(なかむら だいすけ) / びわ湖エコアイデア倶楽部

滋賀県彦根市生まれ。「アイキッズ」「伯母Q五郎」等、こどもエコクラブの指導者。地域に根差した子どもたちの環境教育のプログラム開発・研究を行っている。また、様々な子ども交流会の企画・運営にも携わる。琵琶湖をはじめラムサール条約登録湿地で活動する子どもたちの交流会では、国内外においてファシリテーターを務めている。

8. 全体討論 選考員

(五十音順)



菊池 玲奈（きくち れいな）／結・社会デザイン事務所

2002年10月から約2年、霞ヶ浦の環境保全などに取り組むNPO法人アサザ基金に勤務。2004年10月から約4年、東京大学大学院保全生態学研究室にて、市民・研究者協働による生物多様性保全に関する実践的研究に携わる。

現在、滋賀県に移り住み、環境保全に関するさまざまなプロジェクトのコーディネーターや講演などを中心に活動中。

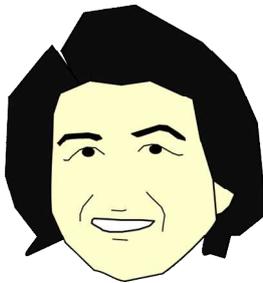


さとうひさる / 天若湖アートプロジェクト 実行委員長

静岡県浜松市生まれ。京都芸術短期大学卒業後、2002年アートと市民をつなぐNPO「アート・プランまぜまぜ」を設立。現理事長。

2005年からは桂川流域ネットワークとともに桂川の流域連携を目的にした「天若湖アートプロジェクト／あかりがつなぐ記憶」を毎年開催。日吉ダムに沈んだ村のあかりをダム湖に灯す巨大アートは地域の風物詩として定着しつつある。

これからも、アートの力で地域を再発見する試みに挑戦していきたいと思っています。



朴 恵淑（ぱく けいしゅく）／

三重大学理事・副学長（環境・国際・男女共同参画担当）

1954年韓国ソウル生まれ。日韓の架け橋として、大気汚染や地球温暖化、水環境保全、環境教育に関わっています。3・11の東日本大震災により、環境の大切さに気づき、絆の素晴らしさに気づき、未来に希望をつなぐことに皆、必死で取り組んでいます。

「淡海の川づくりフォーラム」が、青いゴールドと呼ばれる水資源や水環境の大切さに気づき、日本を動かす大きなムーブメントとなれるよう、頑張ります。



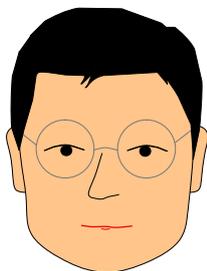
山道 省三（やまみち しょうぞう）／NPO 法人全国水環境交流会 代表理事

1949年11月、長崎県長与町生まれ。子どもの頃、川や魚と慣れ親しむ。

NPO法人多摩川センター、NPO法人全国水環境交流会の立ち上げから関わり、現在は両団体の代表理事を兼任。社会参加、NPOの運営等、仕組みづくりに興味を持つ。一昨年から“いい川”づくり研修会で全国巡業中。「川の日」ワークショップ～いい川・いい川づくりワークショップ（1998年～）事務局長、多自然川づくり研究会。

9. 総合コーディネーター・コメンテーター & 実行委員会

(総合コーディネーター)



福廣 勝介 (ふくひろ しょうすけ) / NPO法人 近畿水の塾 理事長

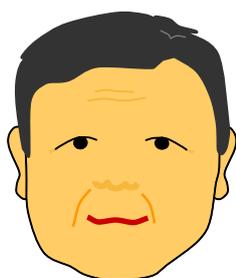
京都大学農学部林学科卒業後、日本住宅公団(住宅都市整備公団を経て現・(独)都市再生機構)に入社、主に集合住宅の屋外の計画設計を担当。現在は(株)URコミュニティで団地管理に従事。住民活動では、NPO法人「近畿水の塾」代表理事、「川の会・名張」代表、NPO法人「全国水環境交流会」理事。自然復元系や協働の仕事に関心がある。昭和24年、三重県伊賀(名張市)に生まれ、爾来、数年間を除き名張住まい。関心事は、山・川・人との付き合い。団地故郷作り。脱近代。

(コメンテーター)



嘉田 由紀子 (かだ ゆきこ) / 滋賀県 知事

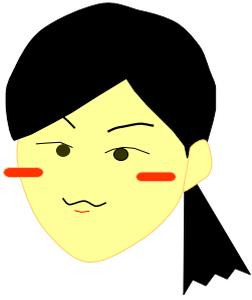
埼玉県生まれ。京都大学農学部卒業、ウィスコンシン大学大学院修士課程(農村社会学)修了、京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了。琵琶湖研究所研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、滋賀県知事に就任。好きな食べ物はふな寿司、ニシンナス、ぜいたく煮。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘、「まっすぐに、しなやかに」。



片寄 俊秀 (かたよせ としひで) / まちづくり道場 道場主

水辺と下町を同時に再生することこそが、人類の明日にくほのかな希望をもたらすと信じ行動する「川じじ」。いい川・いい川づくりワークショップ運営委員。まちづくり道場を主宰するが門人ゼロ。技術士・工学博士・一級建築士。著書『ブワナトシの歌』『スケッチ全国町並み見学』『千里ニュータウンの研究』『まちづくり道場へようこそ』『いい川・いい川づくり最前線(共著)』『いいまちづくりが防災の基本』『日本の石橋・世界の石橋スケッチ集』『まちを歩く・まちを描く』など。食のまちづくり研究の傍らアコーディオン教室に入門し初歩練習中。

(実行委員会)



北井 香(きたい かおり) / NPO 法人木野環境 理事

奈良県山辺郡山添村生まれ。興味があるのは田んぼ、農村の文化、そこで生きる人、日々重ねられた生活。子ども流域文化研究所での過去の水害聞き取り調査に従事し、現在は NPO 法人木野環境 理事。

滋賀の農山村の情報発信・地域づくりの業務に関わり、県内各地へ赴く。地域の良さを前向きに活かして、活動・発信・取組んでいる人たちを盛り立て、応援したい。現職は滋賀県立大学 特定プロジェクト研究員。2009 年に流域治水検討委員会(住民会議)を母体とした淡海の川づくりフォーラム実行委員会を立ち上げ、現在、実行委員長。

(流域治水検討委員会(住民会議) 実行委員会)



大橋さん



杉本さん



松尾さん



中井さん



柴田さん



石津さん



齒黒さん



成宮さん



中村さん



多々納さん

10. 参加団体 活動概要

(A-1)

団体名	白鳥川の景観を良くする会(略称:景観隊)
活動概要	白鳥川流域の環境整備活動と市民の憩いの場づくり(桜並木づくり、体験学習場づくり、健康づくり)
キーワード	① 景観向上 ②時代をつなぐ ③メンバーの3づくり
川や水辺の名称	① 白鳥川 (JR線~びわ湖河口付近)、 ②藤間川 (医療センター~白鳥川合流点)
発表内容	<p>◆白鳥川流域の環境整備活動で地域の「景観向上」に貢献。</p> <p>(1) 活動エリア5kmの場所に於ける除草作業、ごみ拾い等、年間24回の定例活動で環境美化。</p> <p>(2) 2006年発足以来、8年9ヶ月間で179回活動(参加者5417名、除草距離100.7km、ごみ回収13.3t)。</p> <p>◆次世代に思いをつなぐ…市民に親しまれる「憩いの場づくり」で、この自然景観を後世に残したい。</p> <p>(1) 小学校5年生の環境・体験学習の支援、「川に入って生き物調査」他…幼児頃の良き体験づくり。</p> <p>(2) 子供と連携の「桜ぼんぼり」づくりや市民提供の「鯉のぼりの川渡し」等、良き思い出づくりに貢献。</p> <p>◆少子高齢者社会の中、メンバーの3づくりで元気な街づくりに寄与する。</p> <p>(1) 活動を通し、メンバーの3づくり(健康づくり、生きがいくくり、仲間づくりに寄与。</p> <p>(2) 特に活動を通し地域住民からの嬉しい声に、やりがいや生きがいを感じ、活力の元になる。</p>

(A-2)

団体名	いきものみつけファーム滋賀推進協議会
活動概要	身土不二、地産地消に立脚した農産物の生産と安全安心な食と生命について考える環境学習を展開しています。
キーワード	①土づくり ②いきもの ③協働
川や水辺の名称	野洲川 日野川
発表内容	<p>平成24年12月に推進協議会設立からはじまりましたいきものみつけファーム滋賀は、県内の中山間地の農業を活性化することによって、里地・里山の自然環境の保全、子どもたちの環境教育、安全で健康のための食育の推進などを総合的に進める構想を持ち活動しています。今年度は、いきものみつけ寺子屋の環境学習と有機・循環型農法をはじめました。</p> <p>今年度の取り組みを発表します</p>

(A-3)

団体名	渋川生き物絵図作成支援委員会
活動概要	地域の人々と創る「渋川生き物絵図」
キーワード	① 環境教育 ②ESD ③生物多様性
川や水辺の名称	伊佐々川・葉山川 (渋川小学校区)
発表内容	草津市立渋川小学校の6年生の子どもたちは、渋川学区にどんな生き物がいるか調べて、絵図にまとめる計画を立てました。6年生の呼びかけで全学年が、担当する生き物を決め、「渋川学区の生き物探し」が始まりました。その絵図作りを支援するために立ち上げたのが、「渋川生き物絵図作成支援委員会」です。子ども代表、全教職員、地域代表、行政関係者、有識者で組織しています。当委員会が下絵作成を担当し、全校児童が生き物と関わる自画像を張り付け、「渋川生き物絵図」が完成しました。生き物と関わる活動や絵図作りを通して、地域のすばらしさを再発見するとともに、ふるさと渋川への愛着を深めることができました。

(A-4)

団体名	常世川を美しくする会と常世川再生の会
活動概要	清掃事業から昔の様に生き物が沢山住んでいた川への再生活動を実施しています。
キーワード	① 常世川の生き物調査 ② 魚つかみ大会 ③ 河川内での植物・野菜の栽培
川や水辺の名称	常世川 (大津市松本2丁目付近)
発表内容	過去の治水工事の為、生き物が住みにくくなった川に、再び、生き物が戻って来られる様な環境を作りと子供達の親しみやすい川づくりを目指しています。 ① 常世川にどんな生き物がいるのか、毎年調べています。 ② 街中を流れる川で、年に1回子供達が魚のつかみ取りをしています。 ③ 花壇を作り、植物を植え、また、野菜を植えています。野菜は、出来たら地域の行事の時の食材の一部になっています。

(A-5)

団体名	せせらぎの郷
活動概要	魚のゆりかご水田活動。
キーワード	① 琵琶湖のめぐみ ② 生きものとの共生 ③ 環境と経済
川や水辺の名称	野洲市須原
発表内容	<p>我々須原では、琵琶湖に近い自然豊かな田園地帯であり、昔から田んぼに出かけフナやコイ、ナマズなどをつかんで晩御飯として食す生活を過ごしていた。</p> <p>昭和40年代から始まった湖岸整備やほ場整備等により、農業の合理化や交通の利便性は高まったものの、琵琶湖と水路、水田といった生きものとの連続性が損なわれてしまったため。湖魚が産卵・成育できる水田環境を取り戻し、生きものに配慮した水田（魚のゆりかご水田）づくりを行って行こうと決意。平成19年度より、農家、非農家とともに、地域全体で排水路に階段上に堰上げした魚道を設置し、魚が田んぼに遡上しやすい環境を整えている。</p> <p>また水田オーナー制を一般公募し田植え、稲刈り体験や生きもの観察会を実施、都市住民との交流活動等を展開。地域住民の参加だけでなく東京や大阪、大津などの交流にまで発展し、琵琶湖と水田のつながりだけでなく、人と人とのつながりも大きく広がり、人と生きものがにぎわう農村地域の活性化が図られるようになった。その結果として、</p> <p>平成23年度 豊かなむらづくり全国表彰事業「農林水産大臣賞」受賞 平成25年度 田園自然再生活動コンクール「子どもと生きもの賞」受賞 の栄誉を得ました。</p>

(B-1)

団体名	NPO 法人瀬田川リハブレ隊
活動概要	地域に流れる小さい河川や瀬田川における維持管理活動を実施しています。
キーワード	
川や水辺の名称	高橋川および瀬田川（大津市神領町）
発表内容	<p>建部大社周辺を流れる高橋川の河川清掃は毎月25日と瀬田川バイパス下のコムラサキシキブ周辺と河川敷の清掃活動は毎月10日と長期間にわたり活動を推進しています。今回も大きな変化はありませんが、我々の活動に協力いただいている方々の紹介をして報告とさせていただきます。</p> <p>①大津市の環境美化センターで2箇所の活動で集められたゴミは当センターに連絡することにより処理して下さっています。このことは我々の活動の原点となっています。</p> <p>②瀬田南小学校との連携はいろいろありますが、子供たちに書いてもらった「河川を綺麗にしよう」の感性豊かなポスターを河川敷のフェンスに取付け、ポイ捨て禁止の啓蒙を図っています（現物紹介）</p> <p>③瀬田工業高校の生徒さんによる河川の水質調査結果・・・結果は綺麗な水質であることを確認しています。</p>

(B-2)

団体名	ひろい心の会
活動概要	川からゴミを一掃し、いきものが住みやすい環境をつくる。
キーワード	① ゴミのない川へ ②生きものが回帰する川へ ③協働・協助
川や水辺の名称	蛇砂川（玉緒橋～下二俣橋まで 東近江市上大森・尻無町）
発表内容	<p>平成19年(2007年)滋賀県知事と淡海エコフオスター制度の実施について合意して以来、今日まで活動を続けている。</p> <p>私たちの活動は極めて単純明快である。上記キーワードのとおり、ゴミのない川を実現するため毎週水曜日に蛇砂川及びその流域のゴミ・不法投棄物を回収している。</p> <p>川がきれいになれば生き物は自ずと回帰すると信じている。そして専らゴミを回収する私たちの後ろ姿が「協働・協助」の仲間作りになるよう広報活動にも力を入れている。</p>

(B-3)

団体名	守山市勝部自治会
活動概要	親水・防災・水の恵みが生きる活動
キーワード	① 水辺のトレジャーハンティング ② 子どもたちのチャレンジと高齢者の挑戦 ③ 伝統を守りながら自治会活動に奮闘する若者たち
川や水辺の名称	勝部自治会内 たちばな川（楓三道）を含む9河川およびその支流となる水路、かつべほたる北の道（今宿川）、かつべほたる南の道（中水川） （守山市勝部1丁目～勝部6丁目および勝部町）
発表内容	<p>勝部は、昨年11月現在で、世帯数1800戸、人口4400人を超えた大きな自治会です。駅前でありながら、まち中を川や水路が縦横に走り、水辺には賑わいがあり、町民の日常生活に潤いと安らぎを与えています。だからこそ、身近な憩いの場や動植物の生息・生育環境となる水辺・緑の保全と活用は重要であると考えています。</p> <p>町内にある水辺のトレジャー（お宝）をハンティング（探し）し、日常生活の中で地域に愛着を持ったり、豊かな水辺や緑の空間を後世に繋いだりするために、チャレンジする子どもたちや高齢者の挑戦、そして、鎌倉時代から続く県を代表する勇壮な火祭を守りながら、自治会活動に奮闘する若者たちの姿をお伝えします。</p>

(B-4)

団体名	長浜市木之本町杉野地域づくり協議会 & 長浜市北部振興局産業振興課
活動概要	「近いエネルギーで地域を元気に！」
キーワード	① 小水力発電 ②地域づくり ③学校教育
川や水辺の名称	杉野川（長浜市木之本町）
発表内容	<p>長浜市木之本町杉野地域では、これまで、地域住民が一丸となって芝桜を植栽するなど、「みどり豊かな杉野地域」を目指して、様々な地域活動を行ってきました。</p> <p>美しい杉野川周辺でのホテル観察会や、耕作放棄地を農園として活用する活動、古民家を改修した「さきち」を中心とした都市住民との交流活動など、バラエティ豊かな取組を行っています。</p> <p>そうした活動に加え、今年度から、地域の豊かな「水」を活用したマイクロ水力発電による「近いエネルギー」に取り組んでいます。</p> <p>再生可能エネルギーや自然エネルギーについては、東日本大震災以後、特に注目されている課題であり、再生可能エネルギーについては、長浜市にとっても、重要な政策のひとつです。</p> <p>そこで、今回は、豊かな水資源をもつ杉野地域と長浜市がコラボして農村に「近いエネルギー」の取り組みを始めました。杉野小中学校の生徒の皆さんと一緒に、杉野地域の豊かで美しい水を活用して、地域の核となる施設に「灯り」を灯します。</p> <p>現在、マイクロ水力発電を2基設置していますが、もう一基、地元の木を切り出して、手作りの水車を作っているところです。今回は、これらの製作中の水車のお話も含めてご報告いたします。</p>

(B-5)

団体名	市民自然観察会
活動概要	自然観察、湿地植物保全活動。
キーワード	①多様な生きもとの共存 ②豊かな自然を次世代へ ③人と人のつながり
川や水辺の名称	西の湖（園地）と周辺のよし笛ロード
発表内容	<p>市民自然観察会は西之湖の豊かな自然を次世代へ、自然という遊び場の提供、自然環境保全への関与の場提供、人と人とのネットワーク作り、そして従来の自然観察にとどまらない「自然観察会」を開催することを目的に平成20年から活動してきました。その活動の内容は①西之湖よし笛ロードでのゴミ拾い。②西之湖園地のヨシ刈と草刈。③西之湖での水鳥観察と植物観察。④市内里山での植物観察。⑤子供たちへの環境実習などです。そして、市民自然観察会発足以前から観察を続けていた西之湖の水鳥と植物の観察結果を冊子にまとめています。</p>

(C-1)

団体名	琵琶湖博物館 環境学習センター
活動概要	地域、学校、行政、企業、個人から団体まで、みんなの環境学習をサポートしています
キーワード	①環境学習のご相談 ②環境学習に役立つ情報を収集・発信 ③ネットワークづくり
川や水辺の名称	県内全域です。
発表内容	<p>琵琶湖博物館環境学習センターでは、皆さんからの環境学習のご相談に答えています。例えば・・・</p> <ul style="list-style-type: none">○川で生きもの探しをしたい！ ・・・お魚博士や川保全活動団体、水生生物専門家などを紹介します。○川で環境学習したい！ ・・・自然の状況や対象とする人（幼児から大人まで）に合わせて、環境学習のプログラムや運営方法を企画します。○琵琶湖や川、環境問題などの本やビデオがみたい！ ・・・全部で450本以上のタイトルからお選びいただけます。○子ども活動を発表したい！ ・・・こどもエコクラブにご登録ください。毎年12月に琵琶湖博物館で活動発表会を行っています。 <p>http://www.ecoloshiga.jp にアクセスください。講師や本、ビデオ、学習施設の情報が満載です。</p>



(C-2)

団体名	特定非営利活動法人 芹川
活動概要	河川清掃、環境の整備から子育て支援・学童の受託運営の中で教育への関わりへ
キーワード	① 環境整備 ②子育て支援 ③地域の教育力
川や水辺の名称	芹川（彦根市 JR橋よりびわ湖）
発表内容	<p>地域自治会の実施していた芹川の草刈が地域の高齢化で継続するのが困難になった。しかし、美しい芹川を後世に残そうとする声上がり、当会が声かけをし一斉清掃として継続。その後、毎月清掃、河床の小さな樹木伐採へ。また、環境整備のために、芹川隣接近くの市有地を借りて、市民団体、自治会とコラボして、彦根りんご園・湖東焼窯・いちごパークの整備、公衆トイレの設置も。さらに地域の教育力を向上する必要があると考え、当初は、活動地域内3小学校の学童の受託運営からはじまり、26年度からは全ての5学区の学童受託運営を始める。その結果、河川域を中心とした地域の教育力の向上につながればと考える。</p>

(C-3)

団体名	山内エコクラブ
活動概要	水路探検、地区踏査、聞き取り
キーワード	① 水路 ②生きもの ③分けあい
川や水辺の名称	野洲川（甲賀市土山町山内）
発表内容	<p>私たちの住む山内は琵琶湖に注ぐ野洲川の上流に位置します。</p> <p>今までには、川にいる生き物の観察や水質調査をしてきました。</p> <p>また、私たちの暮らしに欠かせない水については、「水道がなかったときどうしていたんだろう？」の疑問から井戸についてはお年寄りよりからのお話を聞き昔の川の様子や水とのかかわり方を学んできました。</p> <p>今年は、水路について、現地を歩き調べました。比較として、条里制がある松坂市の櫛田川流域の圃場整備ができていない水路や田んぼも行きました。今回の発表では、水路探検をしてわかったことについて発表します。</p> <p>また、私たちの得意な創作狂言「水争い」の一節もご披露します</p>

(C-4)

団体名	水土里を守る会新旭地区
活動概要	農地や農業施設の維持管理活動、景観保全活動等
キーワード	①農業排水の節減による琵琶湖の汚濁負荷削減（節水活動） ②自然観察会の実施 ③コイ科魚類の産卵場づくり（水田魚道の設置）
川や水辺の名称	琵琶湖周辺の農地等（高島市新旭町針江集落ほか）
発表内容	<p>琵琶湖が「きれいな琵琶湖」と言われるためには、水質をよくすることや景観を保全することが必要で、地域住民の一人一人の理解と協力が必要です。</p> <p>農村まるごと保全向上対策のために設立した当団体が行っている以下の活動について発表します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 農業排水の節減による琵琶湖の汚濁負荷削減手法について2. 琵琶湖岸に近い田んぼでの観察会について（絶滅危惧種等の発見）3. 田んぼをコイ科魚類の産卵場として活用するための水田魚道設置について

(C-5)

団体名	高時川源流の森と文化を継承する会
活動概要	巨木と山村文化の保全活動
キーワード	① 高時川源流 ②トチノキ巨木林 ③ 山村文化
川や水辺の名称	高時川（長浜市余呉町小原集落、奥川並集落付近）
発表内容	<p>滋賀県最北に位置する高時川源流域には、トチノキの巨木林やブナなどの広大な広葉樹林とともに、豪雪地帯独特の山村文化が永年に渡って育まれてきた。</p> <p>このような森林と山村文化を保全し、次の世代に継承するために、高時川源流域出身の住民によって「高時川源流の森と文化を継承する会」が設立されて、活動を開始した。</p> <p>今年度は、広大な森林に分布する巨木を1本ずつ調査し、小原地区では伝統的な小屋づくりを行った。今後も会の活動をさらに発展させて、琵琶湖淀川水系の最北端の水源を持続的に保全することにつなげていきたい。</p>

(C-6)

団体名	琵琶湖河川レンジャー有志
活動概要	住民と住民ならびに住民と行政の連携・協働のコーディネーター（つなぎ役）として活動
キーワード	① 住民と住民、住民と行政の連携・協働のつなぎ役（コーディネーター） ② 住民の川への思いや知恵の聞き取り ③ 住民の川に関心を持てるような取り組み
川や水辺の名称	琵琶湖とその周辺河川
発表内容	<p>「琵琶湖河川レンジャー」は、琵琶湖及びその周辺において、住民のみなさんの川に関する思いや知恵などを聞き取ったり、みなさんが川に関心を持てるような取り組みをするなど、「住民と住民」、「住民と行政」をつなぐ連携・協働のコーディネーターです。現在、8人の琵琶湖河川レンジャーが、さまざまな活動を展開しています。今回は、発表者である伊東レンジャーの瀬田川（大石地区）での活動内容（住民へのヒアリング活動の様子、行政と住民との協働によって「大石かわべ物語」というイベントが生まれた経緯など）を具体的にご紹介することで、レンジャー活動の意義と魅力を、より深くみなさまに知っていただきたいと考えております。</p>

Memo